

令和7年度 第一回 地域連携推進会議 議事録

社会福祉法人 大館圏域ふくし会
障害者支援施設 軽井沢福祉園

◆ 開催概要

日 時：令和7年10月30日(木) 13:30～15:45

場 所：軽井沢福祉園 会議室

出席者：構 成 員～利 用 者 Y・T様

地域の関係者 Y・I様

福祉に知見のある方 M・I様

施設職員～係長・生活支援員 2名

主任・事務員 1名

施設長補佐・サポーター管理責任者 1名（進行・記録）

（利用者家族様・施設長欠席）

1. 開会のあいさつ

2. 施設長あいさつ（施設長欠席の為、施設長補佐あいさつ）

3. 会議の目的・自己紹介

はじめに

本日の会議で知り得た個人情報等につきましては、外部に漏らす事のないようお願い致します。会議資料につきましては、会議終了後回収致します。

会議の議事録を作成し、公表する事が義務付けられています。当事業所ではホームページに公表する予定です。また広報にも、簡単に会議内容を掲載する予定です。議事録の内容については、公表前に皆様の発言の内容について同意を頂くため、議事録完成後、郵送にて内容の確認をお願いしたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。

目的

地域連携推進会議とは、グループホームや障害者支援施設などが、地域の一員として対等な関係を築き、地域に開かれた施設となることで、透明性と支援の質を確保する事を目的に開催される会議です。とりわけ「施設」は閉鎖的な環境になりやすく、外から見ると理解しづらい面があります。そのため、地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」が義務付けられました。施設を見学する機会を年1回程度設けることも求められています。これを義務として捉えるのではなく、利用者様がその人らしく安心して暮らすことが出来るよう、この仕組みを活用しながら、施設と地域との連携を推進し、事業運営に活かしていきたいと考えています。本日は皆様の日頃の思いや、ご意見を自由に発言して頂き、有意義なものにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

自己紹介

出席者紹介後、自己紹介

4. 施設見学

30分程施設内を見学する

5. 会議・議題

○理解の促進・地域との連携

・事業所の紹介

事業所名 社会福祉法人大館圏域ふくし会 障害者支援施設軽井沢福祉園
昭和 55 年 5 月 1 日 女子 30 名で開設 今年で 45 周年
平成 7 年 4 月 1 日 男子棟が開設
平成 23 年 4 月 1 日「障害者自立支援法」へ移行に伴い、定員変更
現在、生活介護 60 名、施設入所支援 58 名定員となっている

事業内容 施設入所支援の他
短期入所(ショートステイ)・日中一時支援事業・共同生活援助(グループホーム)

職 員 令和 7 年 10 月 1 日現在
施設長～1 名 サービス管理責任者～2 名
生活支援員～31 名(パート 2 名、産休 1 名含む)
看護職員～3 名 事務員～2 名
栄養士～1 名 調理員～7 名(パート 4 名含む)
保清員・清掃員～3 名
嘱託医～1 名(非常勤) 計 51 名(非常勤含む)

運営方針・基本方針 「パンフレット参照」

・利用者状況について

手帳保持者 療育手帳保持者 54 名、障害者手帳保持者 4 名
「てんかん」「統合失調症」「双極性感情障害」等の障害を持った方その他、
身体障害者手帳保持者(13 名)もあり、複数の障害を持った利用者が多い
障害支援区分 障害支援区分 5 または 6 の方が 55 名 平均障害支援区分 5.62 と最重度
の方が入所している

在籍年数 15 年、20 年以上在籍の方が半数ほどおり、軽井沢福祉園開設当初からの利用者も 6 名いる

年 齢 平均年齢は令和 7 年 10 月 1 日現在で 59.9 歳
最高齢は男性の 89 歳。70 歳以上の方も 17 名(29%)と障害者施設ではあるが高齢化が進んでいる状況

入退所 令和 6 年度の利用者の動向については、退所 3 名(死亡 2 名・長期入院 1 名) 入所 3 名(他施設から 1 名・在宅から 2 名)となっている
令和 7 年度に入り、入所 2 名(他施設より)で現在満床

出身地別 大館市が 26 名と多いが、東京都 3 名、札幌市 1 名と、県外出身の利用者もいる

・地域との連携について

コロナ禍以前は、地区の青年会と合同の夏祭り等を行っていたが、コロナ感染症が流行してから開催がなくなり、それ以降地域との交流が少なくなっている。しかし 2 年程前から小規模ではあるが施設内行事を再開し、徐々に地域の方々と交流も増えてきている。地域消防団との合同避難訓練の実施、保育園や、小学校・中学校との交流、ボランティアの受け入れ等を行い、地域の方々と交流が出来る機会を増やしているところである。

また、地域の行事にも参加していきたいと考えているため、情報等がありましたら、お知らせ頂ければと思っている。

●出席者より

【地域の関係者 Y・I様】

- ・地域の行事として公民館の文化祭や地域のレクリエーション大会等がある。「地域」の資源として、「施設」の資源を活用し、連携していけば良いのではないかな。お互い、知らない事がある為、今後は「繋がり」を大切にしていきたい。
- ・公民館便りや小中学校のお便り等、施設にも配布して貰えるようお願いしていく。
- ・コロナ禍以前のような交流を求めている訳ではなく、「出来ないなりに工夫」しながら交流が図れるようお願いしたい。

【福祉に知見のある方 M・I様】

- ・毎年北部エリアの外周を回る駅伝大会を開催しているが、今年は自法人だけではメンバーが集まらず、不参加となった。来年度は近隣の施設職員にも声を掛け、メンバーを募りチームを作りたいと思っているので、一緒に走れればと思っている。
- ・公民館の文化祭の案内については、公民館に話せば案内を貰えると思う。近隣施設利用者の作品等も展示しているので、施設側から声を掛けても良いのではないかな。

【利用者 Y・T様】

- ・今年は「こすもす祭」を行うのか ～ 11月8日に開催予定である事を伝える

○サービスの透明性・質の確保

- ・利用者の日常生活の様子 ～ 毎週「週案」を立案し、その日課に沿って生活している
 - ◎入浴日(月・水・金)～週3回実施。行事等により前後する場合があります
 - ◎入浴日以外(火・木)～廊下歩行や散歩、感覚訓練(パズル・塗り絵・貼り絵・作品作り・刺繍・玉通し・玩具遊び等)
 - ◎土曜日～カラオケ・ビデオ鑑賞・テレビ鑑賞等
 - ◎日曜日～コーヒータイム(好きな飲み物を飲んだり、お菓子を食べたりとゆっくりした時間を過ごす)
 - ◎その他 ～・火・木・土の午後からは自動販売機で好きな飲み物を購入し飲用
・寝具交換・清潔検査・口腔ケア等についても随時実施
・誕生会、クラブ活動(月2回)、売店(地域のコンビニや商店を活用)

各寮独自の活動として

- ◎男子寮～・保護者会から寄贈して頂いたプロジェクターを活用し映画鑑賞
・「お菓子作り」でゼリーやアイスを作り提供
・個別活動として、散歩やドライブ、買い物等、利用者の希望に添った支援を行っている
- ◎女子寮～・希望者に対し「機能訓練」(上下肢筋力低下防止運動等)
・月一回の「レクリエーション」～お茶会、温泉、紙芝居、ゲーム等
・個別支援として外食、買い物、出前昼食会等
・地域の図書館へ出掛けたり、地域施設での映画上映に出掛けている

余暇時間について

- ◎各々好きな事をして過ごす～雑誌や本を読む・クロスワード・自室でテレビやビデオ鑑賞・音楽鑑賞・ゲーム機で遊ぶ・編み物等

・施設行事について

毎月「施設内行事」を計画。また季節行事(夏祭り・クリスマス会等)の他、日帰りの「社会見学」を計画し、動物園や水族館等、県内外の行楽施設に出掛けている。コロナ禍に中止していた施設の文化祭も、昨年度より保護者を招き再開している。

・運営状況の報告

令和6年度の稼働率について、感染症が発生したことによる正月帰省の中止や入院日数の減により、令和5年度に比べ、施設入所は95.2%から97.0%、生活介護は93.2%から95.6%と増加。稼働率の増加に伴い、収益は令和5年度より増額。支出についても職員給与規程の改正による本俸の増、物価高騰による各種経費の増により令和5年度より増額したが、最終的には黒字決算となっている。

施設整備事業について、令和6年度は「厨房エアコン改修工事」「駐車場スロープの設置工事」「非常用放送設備更新工事」を実施。令和7年度は「大型洗濯機更新(実施済)」「高圧ケーブル取替工事」「厨房配管修繕工事」を予定している。

・BCP(業務継続計画)及び避難訓練の実施状況

BCPについて ～ 令和3年度に策定。災害時は、施設が福祉避難所となっている事もあり、施設にとどまることが基本路線であるが、立地的に土砂災害の危険性がある為、その際は福祉エリアに避難する事としている。施設とは別にグループホーム(男子棟)については、市で定められている水害指定区域となっているため、別に避難確保計画を策定している。今年9月の大雨の際には、近くの川が氾濫する危険性がある為、市からの避難指示のもと軽井沢福祉園に避難している。

避難訓練について～・4月 新任、異動職員を対象に夜間想定避難訓練の動きの確認

・6月 土砂災害想定 of 避難訓練 2次避難場所(福祉エリア)へ避難

・7月 日中火災想定 of 総合避難訓練(消防署立ち合い)
散水栓の使い方

・10月 夜間火災想定 of 合同避難訓練(地域の消防団参加)
(施設・利用者の状況を理解して頂く良い機会になっている)

・その他 通報訓練・駆け付け訓練(非通知)・各GH避難訓練

●出席者より

【地域の関係者 Y・I様】

- ・法人創立50周年を迎えたが、様々な繋がりを持って続いてきている。法人の歴史や成り立ち等については、各職員に知っておいてもらいたい。法人の歴史や成り立ちを知る事で、自分達が働いている職場に「自信・誇り」が持てるのではないかな。
- ・電話や来客対応で失礼のないように、法人の役員の方々の名前は知っておいて欲しい。
- ・地域内をスピードを出して走行する車両がある為、徐行運転に心掛けて欲しい。

【福祉に知見のある方 M・I様】

- ・売店について、地域のコンビニを利用しているが、どのような形で行っているのか
～ あらかじめ商品を数点決め、利用者を選択して貰う。電話にて注文し、当日コンビニに受け取りに行っている。

- ・入居者の個別支援について、月何回程行っているのか

～ マンツーマンでの対応となる為、月に1～2名ほどの実施となっている

入居者にとってはありがたい事だと思う。良く頑張っている。

- ・土砂災害の避難訓練の避難について、2次避難場所(福祉エリア)へのルートは

～ ルートについて説明

説明を聞いたルートは、アンダーパスになっており危険と思われる。通行止めが想定される橋については、改修工事をしている為、そちらの方が安全ではないかな。

～ 貴重な情報ありがとうございます。避難場所については検討していきます。

○利用者の権利擁護

・虐待への取り組みについて

令和5年2月に虐待事案(身体的虐待)が発生。県からの指導を受け、「改善計画書」に基づき約2年間、定期的に報告書を提出し、指導を受けている。令和7年2月に県より「改善されている」との事で報告書の提出は終了となったが、引き続き、虐待防止に取り組んでいる。

今年度の取り組みとして

- ・毎月、虐待防止委員会を開催し「虐待もしくは不適切な支援」に繋がる行為はないか確認している（令和5年2月以降、報告なし）
- ・4ヶ月に1度「虐待防止についての啓発ポスター」を掲示
- ・虐待防止セルフチェックリストを年3回実施(すでに1回実施済み)
チェックリストにより、個々の虐待防止への意識が少しずつではあるが浸透してきている
- ・利用者支援について一人で抱え込まないよう、話しやすい職場環境作り
- ・法人全体として、利用者はもちろん職員間においても「さん」付けをする

今後も虐待防止に取り組み、職員の意識向上に努めていきたい。

・苦情・ヒヤリハット・事故報告について

苦情 令和6年度 1件 ～ 生活介護利用者の個人情報についての苦情
個人情報については口外しないよう、全職員に周知している。
また、ご家族・ご本人へは謝罪を行った。

令和7年度 なし

ヒヤリハット・事故報告 ～ 資料をもとに説明

令和6年度 ヒヤリハット 53件、事故報告 6件

令和7年度 ヒヤリハット 20件 事故報告 0件(令和7年9月30日現在)

《傾向・対策》

ヒヤリハットについては、「転倒」が多く、転倒から「骨折」に繋がる事故報告も発生している。

原因としては、利用者の高齢化・重度化が進み、身体機能の低下によるものや、障害の特性(発作・不穏)によるもの、職員の見届け不足等があげられる。

職員同士で情報共有し、基本に立ち返り、声を掛け合いながら見届けする事で再発防止に努めている。

・職員研修状況 ～ 資料をもとに説明

「障害者虐待防止・権利擁護」研修や「虐待・ハラスメント防止」研修等、権利擁護についての研修の他、職員のスキルアップを目的とした研修へも参加して貰っている。

・利用者の希望・意向・意思決定支援について

来年度から「障害者支援施設における地域移行を推進するための取組」が義務化される。今年度は努力義務として「地域移行等意向確認担当者」を選任し、利用者の意向を確認しているところである。意向確認については、地域への移行に限らず、利用者本人の意思や希望を理解する良い機会であり、希望により添った支援に取り組めるよう支援計画に盛り組んでいく準備をしている。

・成年後見人について

6名（うち4名が親族）の方に成年後見人がついている。本人の権利を守り生活をサポートして貰っている。

●出席者より

【地域の関係者 Y・I様】

- ・ヒヤリハット報告や事故報告での「薬」に関しては、必ず起こってしまう。隠さず報告する事が大事。自分のミスと捉え報告しない場合も考えられるため、報告しやすい環境、また利用者が話しやすい環境である事が大切である。ヒヤリハットの件数が多い事が悪いのではなく、ヒヤリハットが出れば出るほど良い。出てきたものを分析し対策をとる（話し合う）事がヒヤリハットである。
- ・日々やる事がたくさんあり大変だと思うが、「働く意義」を見いだして欲しい。
- ・虐待の問題についても、正直に話し、それについてどう対応するか話し合う事が大事である。

【福祉に知見のある方 M・I様】

- ・成年後見人の内訳について
 - ～ 親族が後見人をしている方が4名、他2名は第三者が後見人で、弁護士と社会福祉士となっている
 - ・研修状況について、外部研修の他に内部研修はしているのか
 - ～ 毎月、施設内学習会を開催している。感染症対応や虐待・身体拘束について、腰痛・転倒防止について等を行っている。避難訓練も一つの学習会として行っている。
 - ・ヒヤリハット報告で「薬トラブル」とあるが、どのような内容なのか
 - ～ 「落薬」「飲みこぼし」等をカウントしている
 - ・他者の薬を間違えて服用した場合は
 - ～ 「誤薬」とし事故報告にしている
 - 障害施設には、精神薬等の強い薬を服用している方が多い。間違えて他者の薬を服用した場合、命にかかわる事もある為、事故報告にしている。
 - ・成年後見人について、当該法人の利用者を担当出来ないという決まりがあり、働きながら成年後見人を行うのは、負担が大きい。お互いにカバーし合う体制が出来ればよいのではないかと、今年度より大館市の社会福祉協議会で、法人が後見人となる事業を始めた。成年後見人の負担軽減を目的とし、法人内に社会福祉士の有資格者がいる場合、法人が後見人となり、サポートしていくという事業である。
- また社会福祉法や民法の改正も含め、身元引受とか身元保証を社会福祉法人が事業として行えるよう検討されている。入居者のキーパーソンになる方がいないという状況も出てくるため、貴法人内でも情報収集をしたり検討して頂きたい。お互いに連携を取りながら、利用者を守っていければ良いと考えている。
- 法人の連絡会があり、身寄りのいない方の財産管理等については、どの法人でも課題になってきているようだ。法人として後見人が出来れば、職員は業務として行え、効率的にも良いのではと思われるので、今後提案してみたい。

6. 施設見学を終えて

【地域の関係者 Y・I 様】

- ・以前、男子寮の臭いが気になっていたが、臭いもなく良くなっている。努力しているなあと感じた。
- ・施設に入った瞬間で、その施設のイメージが決まる。綺麗にしている。引き続き頑張っていて欲しい。

【福祉に知見のある方 M・I 様】

- ・入居者の表情を見ながら見学を行った。皆さん穏やかで笑顔が見られており、大変素晴らしいと感じた。
- ・入居されている利用者を大事にしての仕事だと思う。引き続き、大変だと思うが、頑張っていて欲しい。

○その他

※施設側から質問

- ・M・I 様(福祉に知見のある方)の施設では、虐待防止についてどのような取り組みをしているか教えて頂きたい

～ 内部で研修を行い、企画・目的を含め、研修の組み立てを職員が行っている。(外部研修はあまり行っていない)

最近では、職員が集まって行う事も大変になってきているため、パワーポイントでスライド化したものを動画に撮り、各自視聴。視聴後、Google フォームでアンケートに答えるという事を行っている。そうする事で、誰が受けたのか把握できると共に報告書も必要ない。(集計してくれる)

対面で行ったものを映像化し、参加できなかった職員に後日視聴してもらう・・・という形を取った事もある。

「虐待を防止」するというよりは、「利用者を大切にするために、自分達は何が出来るのか(より良い接遇の仕方)」という事を職員に話し合わせた研修を行った事もある。

※【地域の関係者 Y・I 様】

- ・いろいろな方々と話し合う良い機会であった。皆さんの話が聞け、良かった。

【利用者 Y・T 様】

- ・初めて出席したが、いろいろな事がわかり、大変ありがたく思っている。これからもここで、皆さんと仲良く、しっかりやっていきたい。

7. 閉会のあいさつ

本日は、忌憚のないご意見・情報ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

以上